

二地域居住を加速する

DUAL SCHOOL

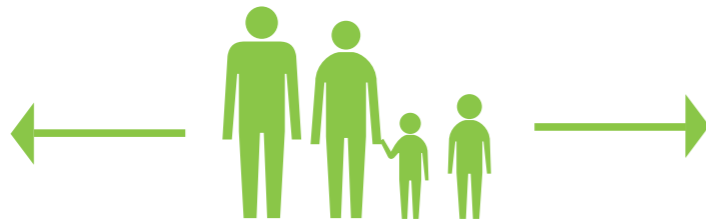
# デュアルスクール

～地方と都市を結ぶ新しい学校のかたち～

デュアルスクールとは、地方と都市の両方のよさを教育活動に取り入れることができるよう、地方と都市の二つの学校が一つの学校のように教育活動を展開することができる「新しい学校のかたち」のことです。「二地域居住」や「地方移住」を促進する際の子どもの教育上の課題を解消するとともに、親の働き方改革や、地方と都市の双方の視点を持った児童・生徒を育成することを目的としています。

一定期間、保護者と移住し、移住先の学校に通います

都市



地方

## ■都市の人々のニーズ

- ・サテライトワーク等「新たな働き方」を実践したい
- ・家族での地方移住に向けて「お試し居住」を試みたい
- ・地方の豊かな自然や文化に触れさせることで、子どもに多様な価値観を持たせたい etc...

## ■地方の人々のニーズ

- ・地方と都市の違いや魅力を感じて多様な視点を持たせたい
- ・地方だけでは養えない都市部の進んだ感覚を持たせたい
- ・都市での生活を経験させることで改めて地方の魅力に気付かせたい etc...

## デュアルスクールに期待される効果

- ・地方と都市、二つの学校の児童・生徒が同じ教室で共に学び、交流することによる、学校の活性化及び双方の視点(デュアルな視点)を持った児童・生徒の育成
- ・複雑な転校事務を簡素化することで二校間移動が容易になり、地方と都市の交流人口が拡大
- ・学習進度の違いなど、学校生活の不安を解消することによる、地方と都市の二地域居住の可能性の拡大、さらには地方移住の促進

## 対象となる児童・生徒

- ・三大都市圏(首都圏・中京圏・近畿圏)等及び徳島県内の公立小中学校に通学する小学1年生から中学2年生までの児童・生徒
- ・受入先の市区町村の校区内に居住地を確保でき、その居住地から概ね2週間以上通学可能な児童・生徒
- ・保護者と共に市区町村内で生活できる児童・生徒
- ・社会や学校の規則・マナーを守り、他の児童・生徒と協力して落ち着いた学校生活を送ることのできる児童・生徒



Dual School!!

非日常ではない、もうひとつの日常。  
親子の関係を深くみつめる、みつめあう、特別な時間。  
徳島で実現する新しい学校のカたち。

デュアルスクール事業は、二地域居住・地方移住の促進を目的に徳島県が推進するモデル事業です。

## 問い合わせ先

徳島県立総合教育センター学校経営支援課//電話:088-672-6420//FAX:088-672-6411//keieishien@mt.tokushima-ec.ed.jp  
デュアルスクール実証事業コーディネート・プロモーション担当 株式会社 あわえ  
電話:0884-70-5831 //FAX:0884-70-5832 //e-mail:info@awae.co.jp

デュアルスクールの詳細は、ホームページをご覧ください。

デュアルスクール 検索  
<https://dualschool.jp/>



# 地方と都市。 2拠点だから育める 多様な価値観、多角的な視点。



「トンボは知ってる。でも触ったのは初めて！」と大興奮の児童。実際に目で見て、触れて学べるのも徳島だからこそ。

## DUAL SCHOOL

<これまでの制度活用例・保護者の声より>

2016年10月。徳島県海部郡美波町と美波町立日和佐小学校を舞台に、2週間に渡るデュアルスクール第1回実証実験が実施されました。

モデル家庭となった杉浦さんは、オフィス環境から働き方までをトータルでプロデュースしている株式会社ヒトカラメディアに勤務。前年、徳島県美波町に循環型サテライトオフィスを設置し、リモートワーク・テレワーク勤務を試行し始めていました。「実証実験のお話を聞いたときは、とにかくやってみたいと思いましたね。」



2週間のデュアルスクール期間中、杉浦さんと小学2年生（当時）の息子さんは美波町内にある住居一体型のサテライトオフィス施設「戎邸」で過ごしました。

せつかくのサテライトオフィス勤務の機会も家庭、特に就学児を持つ杉浦さんにとっては容易に参加できるものではありませんでした。家庭と仕事の両立、そしてスキルアップへの意欲や子どもの成長への不安。働く母親が一度は経験する壁のようなものを解決できる何かが見えるのではとの期待があったと言います。

「私には今住んでいる東京以外に生まれ育った故郷がありませんが、息子は東京だけなんです。もちろんそれが悪いとは思っていません。ただ、将来、『俺の田舎は』なんて自慢話のひとつも



地域の秋祭り。地元の友だちと一緒に町内会の子ども神輿にも参加しました。

できる場所があればなお良いかなど。」

「さようならは言わないよ。おれ、また来るから。」

保護者の意向が先行したかたちで始まったデュアルスクールですが、日和佐小学校での2週間が終わる時、クラスメートにこんな印象的な挨拶をしました。

海や山、豊かな自然と昔ながらの情緒はあふれています。地元の子どもたちには「東京こそ面白いんじゃないの」との疑問も当然のこと。お互いの違い、良いところ悪いところ、時にはムキになり、ぶつかったりしながらたくさん話をして「違うことがあるのが普通」「違うことがあるのは決して悪いことじゃない」と自然



東京の在籍校では春に、デュアルスクールでの穴喰小学校では秋にと、1年で2回の運動会を経験するという例もありました。

に多角的なものの方、考え方に身に付いてきたと言います。

海陽町では祖父母宅への里帰りも兼ね、年3回のペースで継続的な活用をしている家族もいます。初回は小学校入学後すぐという非常にデリケートな時期でしたが、穴喰小学校の少人数指導が児童にマッチし、かえってよいスタートになったと嬉しい感想もいただきました。

美波町ではサテライトオフィス勤務に家族を帯同し、小学校3年生、5年生の兄弟でデュアルスクールを活用する例もありまし



穴喰小学校校区内にある海洋自然博物館マリニャムでの学習の様子。この日は海中観光船ブルーマリニャム号に乗船し、サンゴや熱帯魚など海の生物を観察しました。

た。株式会社イーツリーズ・ジャパンに勤務する三好さんは自社のサテライトオフィス開設以来、単身で度々美波町を訪れており、いつか家族も一緒にと考えていた矢先、デュアルスクールを知ったと言います。地元の子ども達にすんなりと溶け込んでいたのをはじめ、親が思う以上に子ども達は成長している実感できる場面が度々あったそうです。

「旅行で訪れたのではなく、日常の暮らしだったからこそ気づけたことがたくさんあった。」



日和佐小学校ではプログラミングなど、サテライトオフィス企業による特別学習も度々行われています。

### デュアルスクール詳細情報

- 「区域外就学願」の届出により、徳島と都市部の二つの市区町村教育委員会が協議し承認されれば、住民票を異動させずに転校することが可能です。
- 徳島と都市部の二つの学校が一つの学校のように教育活動を展開し、両校間を1年間に複数回、行き来できます。
- 期間や回数は個人の希望に合わせて調整できます。
- 徳島県内の受け入れ先小・中学校には、学習進度の違いを調整するための講師を配置し、児童生徒の学習を支援します。
- 住所地の学校と受け入れ市町村内の学校、双方での授業日数が出席として認められます。